

## 令和3年度 さいたま市立大砂土小学校 学校関係者評価書

さいたま市立大砂土小学校

学校関係者評価委員長 嶋村 豊



### 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 10人  
(2) 実施回数 3回(うち1回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、資料を学校関係者へ提供し、御意見を電話やFAX、メールで伺う形とした)

### 2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

#### (1) 「令和3年度の目標」及び評価項目について

- 評価項目では、『特別の教科 道徳』の指導法の工夫改善や「安全な環境づくり」、「保護者や地域のボランティア等との連携、安全な登下校」、「学校における新しい生活様式」への対応、学校安心メールや学校ホームページを使った情報発信、感染症予防については、全ての評価者において、肯定的な回答が9割を超えており、十分な成果を得られていると言える。また、「真の学力の育成」、「読書活動の推進」にも十分満足できる成果が表われている。
- コロナ禍の中、教育活動の停滞が心配されたが、2学期の一時期の収束期間に校外学習等の活動再開がみられ、その成果を上げられたことは非常に良かった。3学期に入り「まん延防止等重点措置」の適用により、教育活動が制限され困難な状況になったが、学校側の感染予防対策や交通安全対策等、児童の安全を重点的に強化され、児童の心のケアに支障なく学業に徹することができたことは、評価結果に表れている。
- いじめの早期発見に取り組んでいることは大変よい。いじめが発生するのは、避けられないことなので、早期発見、指導、見守りに引き続き御尽力いただきたい。
- 大砂土小学校の目標や評価項目について、すべてにおいてきめ細かく配慮、指導されている様子がわかった。児童の自己肯定感、達成感を保ちながら学校生活を送ることができるのも先生方の努力によるものと思われる。
- 過年度との比較(3か年程度)、全県または全国の比較ができるように資料の構成をしていただけるとよい。

#### (2) その他

- ICT機器、特にタブレット端末の活用やコロナ対策には、教職員の総力を挙げた結果、子どもたちに十分に理解されて行動に表れていた。また、気持ちのよい挨拶が地域内でよく見かけて、子どもたちがコロナ禍の中でも明るい笑顔で登下校する姿が多くみられた。凡事徹底の教育目標が行き届いているのを感じた。
- 地域として、学校と連携して防犯や交通安全等、児童の安全確保に努めていきたい。
- 防犯ボランティアの確保が特に課題とうかがっている。子どもたちの安全に関わることなので、人的つながりだけでなく、様々なメディアを活用して募集してはどうか。学校側のサポートをお願いしたい。
- これからもICT機器を活用した教育が進んでいくと思われる。「端末を扱うルール」や「健康面の配慮」、「個人情報」の取扱いについて、学校と家庭で共有し定着を図ることでICT機器を活用することが望まれる。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

来年度も感染症予防の対策に万全を期すとともに、学校での取組が不十分な点や児童、保護者、教職員の評価に隔たりがみられる項目については、以下のように改善を図っていきます。また、来年度から設立される「コミュニティ・スクール」を通して、学校・家庭・地域・行政の連携・協働体制を構築し、地域の教育力の向上を図るとともに地域に信頼される学校づくりを推進してまいります。

- 「真の学力」を育成するために、タブレット端末を効果的に活用した授業の工夫改善を進めてまいります。また、家庭との連携を図りながら、端末を利用した家庭学習の行い方や活用のルール提示し、保護者の理解と協力を得られるように取り組んでまいります。
- 「いじめ防止、教育相談」では、「人間関係プログラム」や「いのちの支え合い」を学ぶ授業、「心と生活のアンケート」の活用し、保護者、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー、関係機関と連携を図り、きめ細やかな対応を徹底してまいります。
- 防犯ボランティアの確保については、学校だよりやホームページで募集するだけでなく、さいたま市や安全協会、消防署、自治会等の官公庁や関係機関の協力を求め、安全対策を進めてまいります。

さいたま市立大砂土小学校長 山下 保夫

